

きぼう

令和年1月30日(金)
静岡大学教育学部
附属静岡小学校
5年学年便り 2月号

最高学年に向けて ～6年生への第一歩～

2026年を迎え、きぼうの子どもはいよいよ附属静岡小学校の最高学年を見据えて歩み出しています。

1月28日(水)に令和8年度新入学児童保護者説明会がありました。保護者の方が説明会に参加している間に、5年生には新1年生を教室に連れて行ったり、校内を見学したりする時間がありました。きぼうの子どもが学校を支える6年生になったときに、出会う新1年生と関わる初めての日でした。新1年生を気遣いながら手を繋ぎ、楽しそうに一緒に話をしている姿をみると、希望が満ち溢れているようでした。ある子は「手がちっちゃい、言動がかわいい!」と、すっかりお姉さんの気持ちになって関わっていました。また、ある子は「自分たちの教室案内してもいい?」「いまから5年後に(あなたも)ここに来るんだよ」と自分たちの教室を自慢気に案内していました。どちらの姿も新1年生に対する優しさに溢れていたのと同時に、心のどこかで自分たちの成長の軌跡を感じていたような、そんな微笑ましい姿でした。そのような関わりを見ていて、来年のきぼうの子どもがどのように学校を支えていくか楽しみになりました。

きぼうの子どもは「6年生を送る会」に向けて、忙しい毎日を送っています。この会に向けた準備は昨年の11月からずっと続いています。「6年生にどんな思いを伝える会にしたいか?」と話し合った際には、今まで学校を支え、全校を導いてくれたことに対する感謝、中学に行っても頑張してほしいという応援の気持ちや、自分たち「きぼう」にこれからの附属小を任せてほしいという引継ぎの気持ちなど、きぼうの子どもならではの6年生や会に対する思いが共有されました。こうして出来上がったのが「ひかり輝いて学校全体を引っ張ってきてくれた6年生に心から感謝を伝える会」というスローガンと、「全員主役 ～6年生への第一歩～」という5年生の目標です。このスローガンと目標のもと、6年生のために自分ができることは何か一人ひとりが考え、仲間と共に自らをきりひらきながら進んでいます。

今、「6年生を送る会」に向けた活動は、係別会議という段階に進んでいます。「司会」「演出」「出し物」「プレゼント」「飾り付け」の5つの係に分かれて活動しています。どの係も大切な役割があり、それぞれが責任をもって行動していくことで「全員主役」になることができます。ここではプレゼント係での係別会議の様子を少し紹介します。プレゼント係では各学年が作り上げたプレゼントを入れる袋の、どの位置にリボンとメッセージカードを付けるべきか話し合っていました。たかが付ける位置なんてどこでもいいのでは?という気持ちは子どもたちには微塵もありません。その位置にさえも、自分たちの思いをのせようとしています。「リボンの下にメッセージカードをつけると自分たちの伝えたいことが伝わりにくいのでは」「メッセージをしっかり読んでほしい。6年生に感謝を伝えることが大切だからこそスローガンにも感謝という言葉がある」などの思いから、結局持ち手の左側にカード、右側にリボンをつける決断に落ち着きました。もちろん、それぞれが協力し合う「横」のつながりも大切です。出し物係の提案の良さを感じて、今5年生全員がダンスを各学年のクラスに教えに行っています。

私たち5年部は、「6年生を送る会」を通して、きぼうの子どもに大きく成長して欲しいと願っています。学校全体を動かしていく初めての行事として、会が終わったときに達成感をもち、それが自信となってその子の中に還って行って欲しいと思っています。その先に「自らをきりひらく子」があるはずです。きぼうの子どもを支えていきます。これからもご家庭の本校へのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。